

3. 取組内容

(1) 田んぼダム作業



大雨が予想される場合、町防災無線にて田んぼダム実施を周知し、事前に落口板の調整作業を実施している。

(2) 落口柵更新作業



貯留機能増進のため、水位調整器具として、落口柵及び排水管の更新作業を実施している。

(3) 畦畔再構築作業



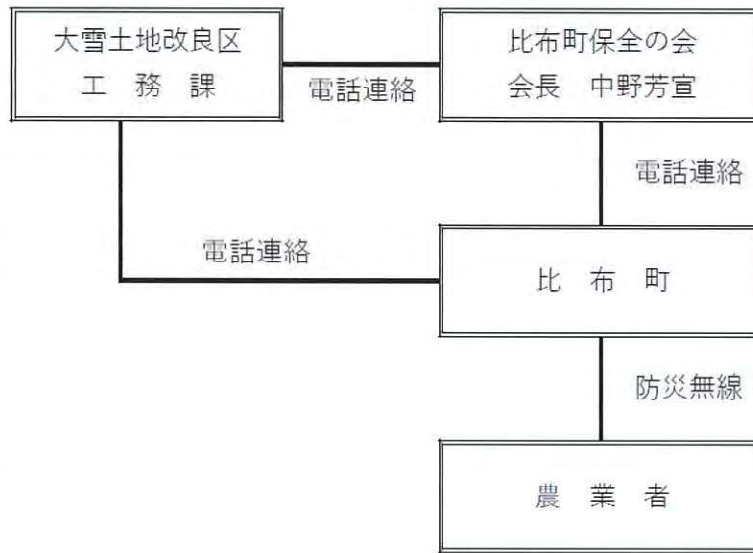
貯留機能増進のため、畦畔の再構築作業を実施している。

(4) 啓発・普及活動



田んぼダムの取組について看板を設置し、地域住民に啓発・普及を図っている。

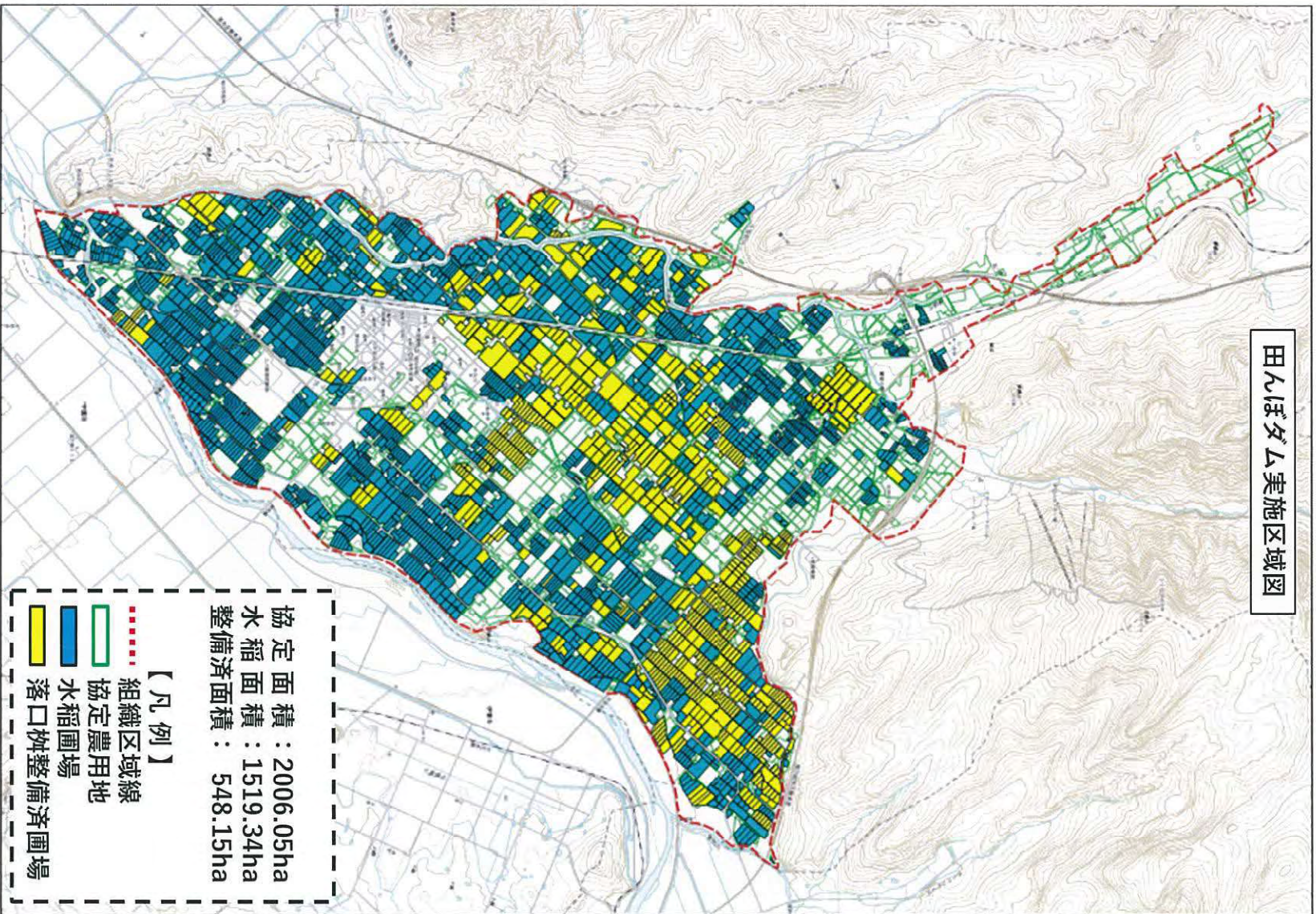
令和4年度 大雨による田んぼダム実施連絡体制



気象庁発表の大雨警報が発令された場合、組織役員は、比布町・改良区と連携を図り連絡体制で周知し、農業者は速やかに田んぼの落口板の調整作業を実施する。
※気象庁の大雨警報基準 (50mm/h)

* 農業者は防災無線・LINEが入った時には、水田落口板を上げ貯留し、水の流出を遅らせる作業をしましょう。

田んぼダム実施区域図



4. 取組の効果

- (1) 活動を通じて、地域全体で農業用施設を守り、防災・減災に取り組もうという意識が向上した。
- (2) 落口柵・排水管の更新、畦畔の再構築の実施により、水田貯留機能が向上し、下流域の冠水被害が低減した。
- (3) 行政・土地改良区等の連携が円滑となり、地域一体での防災・減災対策が可能となった。

5. 今後の課題

- (1) 農業者の高齢化や担い手不足、また営農の大規模化に対応した、少人数で作業可能な調整器具の選定・導入。
(流出調整板・自動給水栓・自動排水栓等)
- (2) 活動組織(農用地)・行政(排水)・土地改良区(用水)の防災・減災作業の連動と周知方法の一本化。
- (3) 田んぼダムの作業負担軽減及び機能向上・効果発揮に向けた、早急な大区画化基盤整備事業の推進。
(本地区は1ha未満の小区画水田が7割を占める。)

余白